

KUMISETSU



部品リスト

全てのパーツが揃っているか、組み立て前にご確認ください。

No.	部品名	No.	部品名
①	サイドフレーム	⑨	ナット
②	クロスバー	⑩	プラスドライバー
③	棚板	⑪	レンチ
④	ボックス	⑫	固定用チューブ
⑤	アジャスター	⑬	ワッシャー
⑥	引っ掛け金具	⑭	スプリングワッシャー
⑦	引っ掛け金具用ねじ	⑮	フェルト
⑧	ナットキャップ (予備あり)		

※部品が足りない場合は、巻末に記載の連絡先までご連絡ください。

KUMISETSU



手順

後半に記載の「組み立てポイント」と「注意点」もご確認ください。

- ①サイドフレーム下部に⑤アジャスターが取付いている事を確認してください。(図1)
- ①サイドフレーム背面のねじに②クロスバーを合わせ、⑪六角レンチを使用して⑨ナットを取付けます。(図2)
※必ず1人がフレームを支え、もう1人が取付けを行ってください。
- ③棚板、もしくは④ボックスを裏返しにし、ガイド穴に⑥引っ掛け金具の穴を合わせ、⑩プラスドライバーを使用しねじで⑥引っ掛け金具を取付けます。(図3)
※必ず垂直に最後までねじが入っていることを確認してください。最後まで締めない場合金具が落下するなどして危険です。
※④ボックスを裏返し(底面を上向き)にする際はガラス等の取扱いに注意してください。
- ③棚板、または④ボックスの取付け位置に⑫固定用チューブを開きながら巻き付け、その上から③棚板、または④ボックスを向きに注意して乗せます。(図4)
最後に全てのボルトを強く締め、商品本体を起こしてぐらつきがある場合、⑤アジャスターでぐらつきを調整したら完成です。

図1

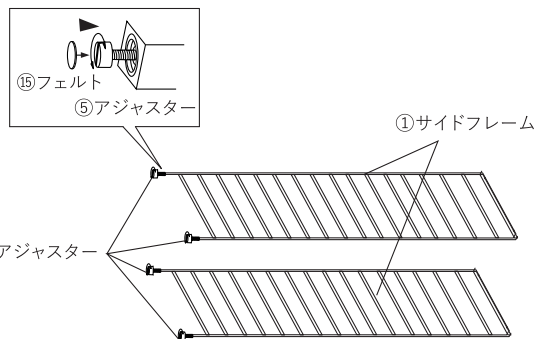


図2

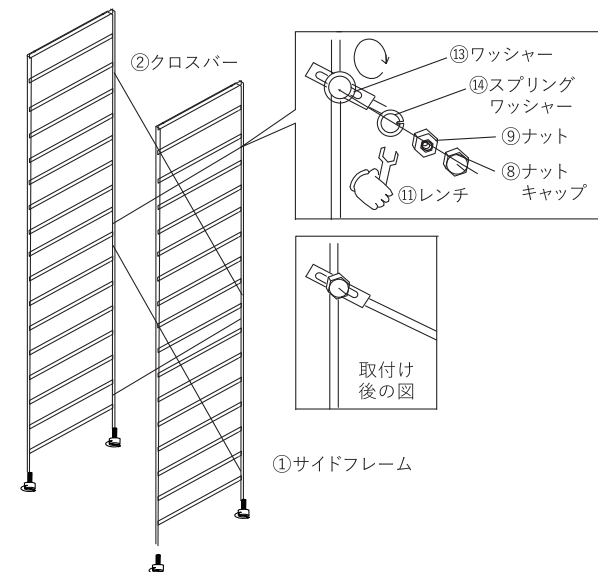


図3

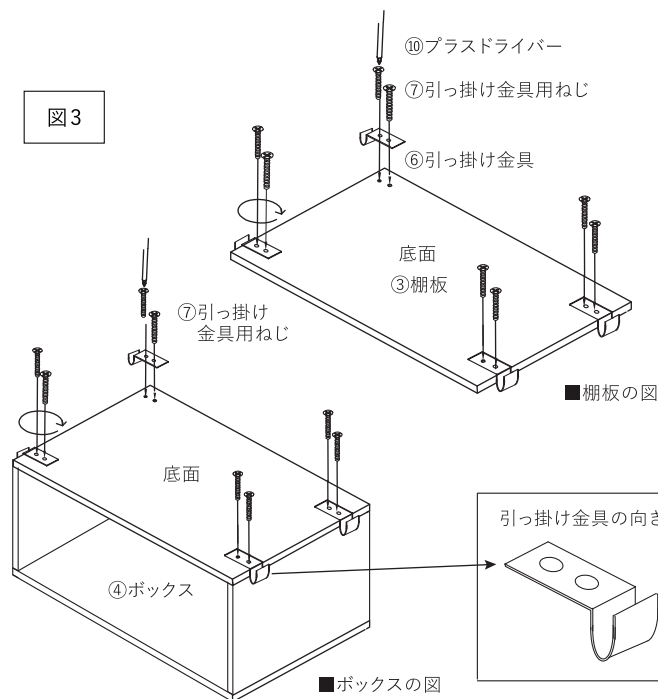
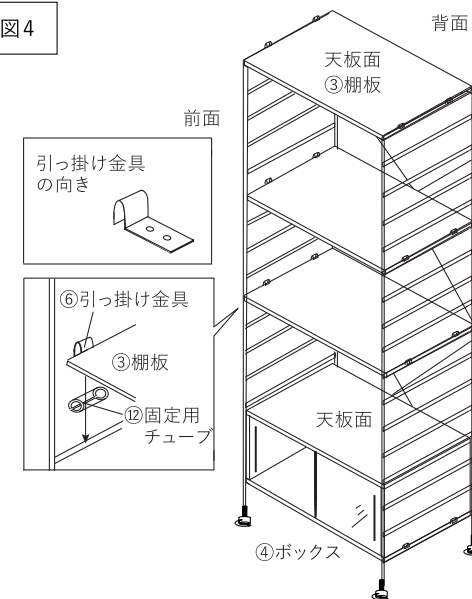


図4



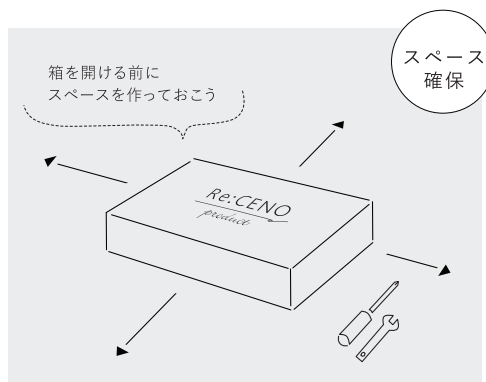


組み立てポイント

組み立ての時に大切なポイントをまとめました。

組み立ての作業スペースを確保

まずは作業スペースをしっかりと確保しましょう。組み立てるスペースはもちろんですが、組み立て前の材料の確認や、その後の材料をわかりやすく置いておくスペースも考えておきましょう。



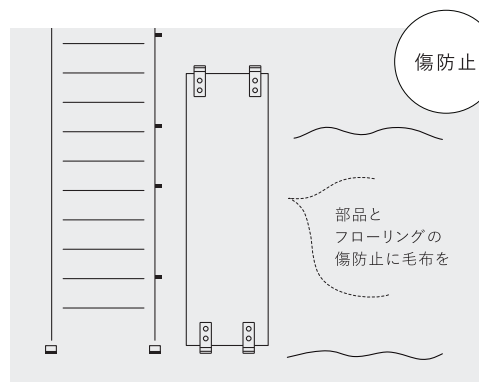
部品は揃ってますか？ 最初に確認を

組み立て前の必須ポイントが部品確認。数や部品は揃っているのか？ どの部品が何のための物なのか？ 始めに見ておくことで作業もスムーズに。万が一部品が足りなかった場合も組み立て前に連絡ができます。



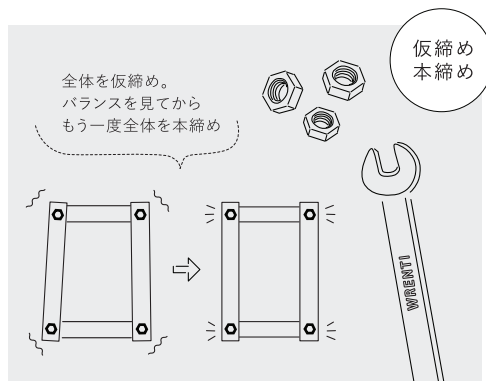
傷が付かないよう、床に毛布を

ユニットシェルフの組み立てをする際、床に直接部品を置くと、床と部品に摩擦が生じて、傷が付くことがあります。大きめの毛布などを用意して、その上で作業することをおすすめします。



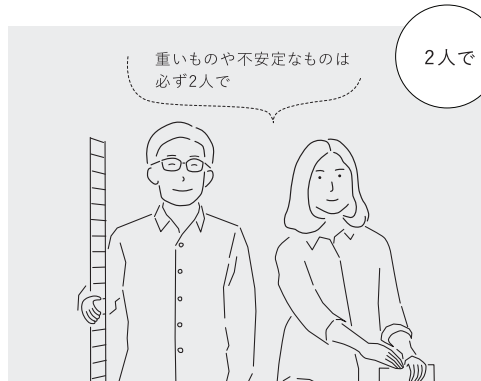
ねじ、ナット類は仮締めから

組み立てを行うとき、最初から10割の力で締めると、微妙なズレが調節できずに最後に組みあがらないこともあります。始めは7-8割の力で仮締めを行い、全体の形ができてから本締めを行うようにしましょう。



組み立ては必ず2人でいきましょう

重いものや大型のもの、組み立ての過程で不安定になるものなどは、1人で組み立てを行うと危険です。商品の破損や周辺の家具に傷が付いたりする可能性もあるので、必ず2人で協力しながら行ってください。



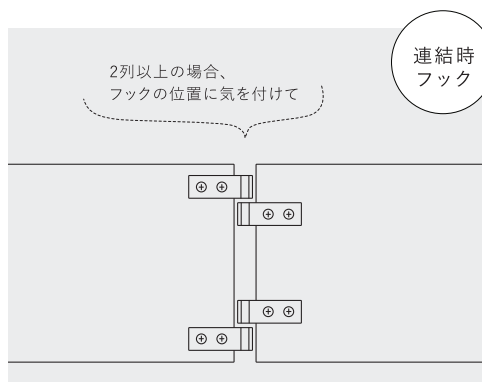


組み立てポイント

組み立ての時に大切なポイントをまとめました。

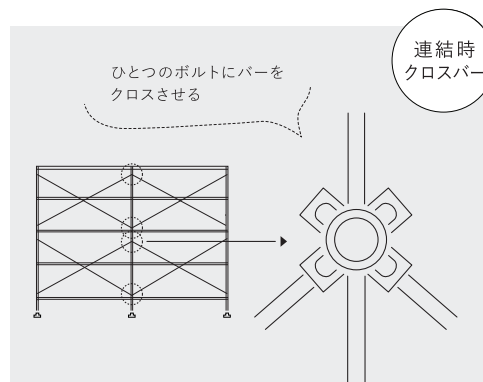
フックの位置が重ならないように

R.U.Sユニットシェルフを2列以上で連結して取り付ける場合、フックの位置が重ならないように気をつけましょう。一方は外側、もう一方は内側というイメージで取り付けると、フレームにはめやすくなります。



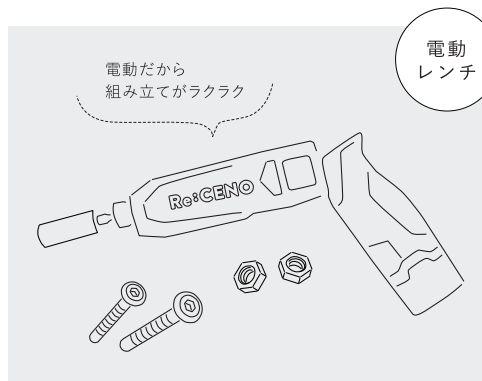
クロスバーを2つ重ねて止める

R.U.Sユニットシェルフを2列以上で連結して取り付ける場合、連結部分は1か所のボルトに対してクロスバーを重ねるように取り付けましょう。片側が自立した状態で行くと楽に取り付けられます。



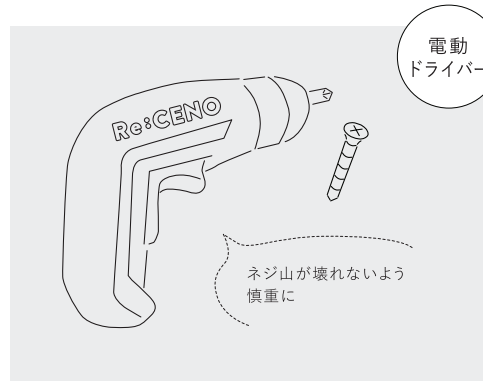
電動レンチを使って効率的に

ナットやボルトの多い商品は、電動レンチを使った組み立てがおすすめ。先端のビットをナットやボルトのサイズに合ったものを用意すれば、ストレスなく効率的に組み立てが行えます。



電動ドライバーを使う場合は慎重に

電動ドリルは楽に作業ができる反面、力が強いので、場合によってはねじ山を壊してしまうというリスクもあります。トルク調節の機能が付いているものを使うか、様子を見ながら少しずつ締めるようにしましょう。





注意点

組み立て前に必ずご一読ください。

※組み立て及び増し締めの際、過度の締めすぎは脚、フレーム、ナット等の破損、金具の変形の恐れがありますのでご注意ください。

※商品仕様は予告なく改良となる場合があります。

※組立後の移動は必ず収納物を取り除き、2名以上で左右からフレーム部分をしっかり持ち、慎重に移動をしてください。

棚が外れて物が落ち思わぬけが等の原因になる事があります。

※棚板は可動式です。組立後に棚板を持ち上げると棚が外れ思わぬけが等の原因になることがあります。

※本製品はマットレス等を敷いてからお使いください。

※無理に引きずると、脚部の折れや不良につながる恐れがございます。

※メンテナンスのため、半年に一度はねじ類の締め直しをおすすめします。

※表面の汚れには薬品を使用せず、水拭き後にやわらかい布で乾拭きしてください。

シンナーやベンジンなど有機溶剤を含んだ布などは使用しないでください。

表面の仕上げに変色や変形、ハガレが発生することがあります。

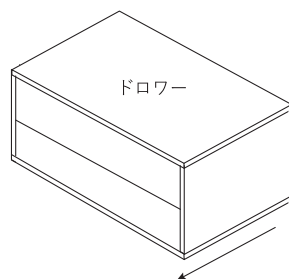
■耐荷重表

	棚一枚	棚全体 (総数)		フレーム 一段	フレーム 全体
W880 棚板	約15 kg	約50kg	H1640 サイド フレーム	約40kg	約180kg
W440 棚板	約15 kg	約40kg	H900 サイド フレーム	約40kg	約90kg
引出し ガラス引き戸 木製引き戸	約8 kg	約10kg	H530 サイド フレーム	約40kg	約50kg

■ドローワーについて

ドローワーは手前に引き出して使用する関係上、上段に設置すると、R.U.S本体が手前に転倒しやすくなる恐れがあります。

内容量に合わせて、出来る限り下段への設置を推奨いたします。

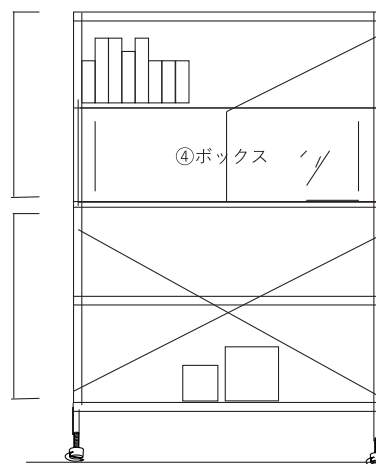


※かたよって上段に物を置かないでください

×不安定になりやすい使い方

重いもの

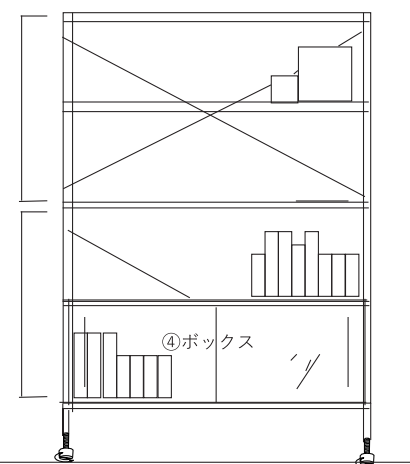
軽いもの



○安定しやすい使い方

軽いもの

重いもの





注意点

組み立て前に必ずご一読ください。

奥行き20cmタイプをご使用の場合、同梱の”転倒防止補助フック”を必ずご使用下さい。

< 転倒防止フックについて >

※急激に力を加えると壁紙等が剥がれる可能性がありますのでご注意ください。

※1連結につき必ず2個ご使用ください。「転倒防止補助フック」は、R.U.Sを通常の使用で安全にお使い頂く為のパーツです。

※ご使用時は付属の注意書をよくお読みいただき、取り付けください。

※コンクリート等、ねじ留めが出来ない場合には壁の状況をよくお確かめの上、粘着シールをお使いください。

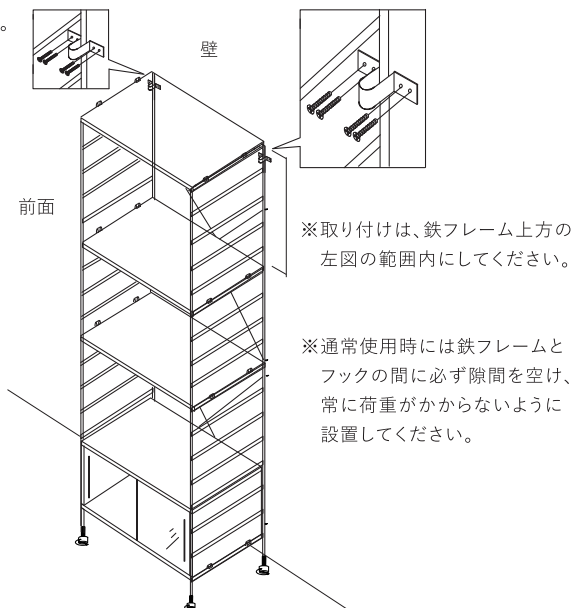
(粘着シール:1枚につき耐荷重約400gです)

※地震の規模によっては、転倒の可能性があります。(耐震用ではありません)

【取り付け例】

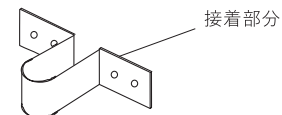
※必ずねじを最後まで締めてください。

最後まで締めない場合金具が落下するなどして危険です。

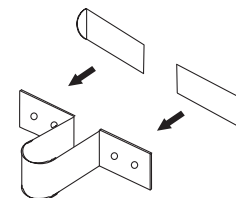


【コンクリート壁、石膏ボード壁など、木ねじをねじ込めない場合】
付属の粘着テープを使用して、次の手順で壁に取り付けてください。

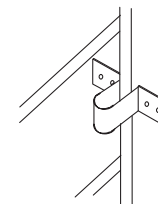
1、フックの接着面を
布などで拭いてください。



2、粘着テープのフック側の剥離紙を
剥がしフックに貼付けます。
※粘着部分とフックの接着面を合わせます。

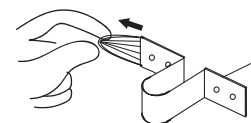


3、壁側の剥離紙も剥がし、壁に貼付けます。
※壁に貼付けたら、棚に物を乗せない
(フックに負荷のかからない)状態で
24時間以上おいてください。



粘着テープの取り外し方

フックを押さえながら粘着テープの図の部分で指で壁に沿って引っぱり剥がします。



※フックを押さえないと
フックが飛ぶ恐れがあり
危険です。

お疲れ様
でした

